

History of Asahi Ward

旭区



江野川(昭和42年頃)

区民による地域史づくり・人づくり

平成20年3月

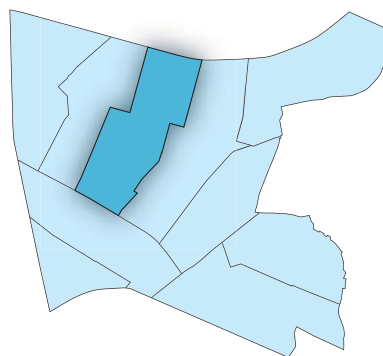
いまむかし
旭区の今昔を知る会
大阪市旭区役所

地域史

大阪市旭区地域史づくりワークショップ

な か み や

中宮 編



旭区地域史

区民による地域史づくり・人づくり 大阪市旭区地域史づくりワークショップ

平成19年度実施地域 中宮・太子橋

はじめに～地域史について

■この「旭区地域史」は、地域の歴史を発掘する区民の取り組みとして、平成19年5月28日から平成20年3月13日の約10ヶ月間に計8回ワークショップを開催し、その成果として参加者の手によって作成されたものです。ワークショップは、地域史の作成とともに、「知って得する旭学講座」などで積み重ねてきた経験等を活かした人材の育成、活動を通じて地域コミュニティのさらなる向上を図ることも目的としています。

■ワークショップに参加された方は、これまで地域を研究されていて歴史について大変知識のある方から、旭区にずっと住んでおられるが地域の歴史をあまりご存じでない方までいらっしゃいましたが、「地域史をつくる」という1つの目標に向かって一丸となり取り組みました。

■今後は、旭区民が作成した初の「地域史」として、多くの方々に興味を持っていただき、地域のコミュニケーションを高めるツールや学校の教材など、様々な場面で活用されていくことが期待されます。

■地域史の作成にあたり、各種資料をご提供いただいた関係機関の皆様に、心からお礼を申し上げます。



■第1回(平成19年5月28日)



■第2回(平成19年7月3日)



■第5回(平成19年11月22日)



■第6回(平成20年1月29日)



■第7回(平成20年2月26日)



■第8回(平成20年3月13日)

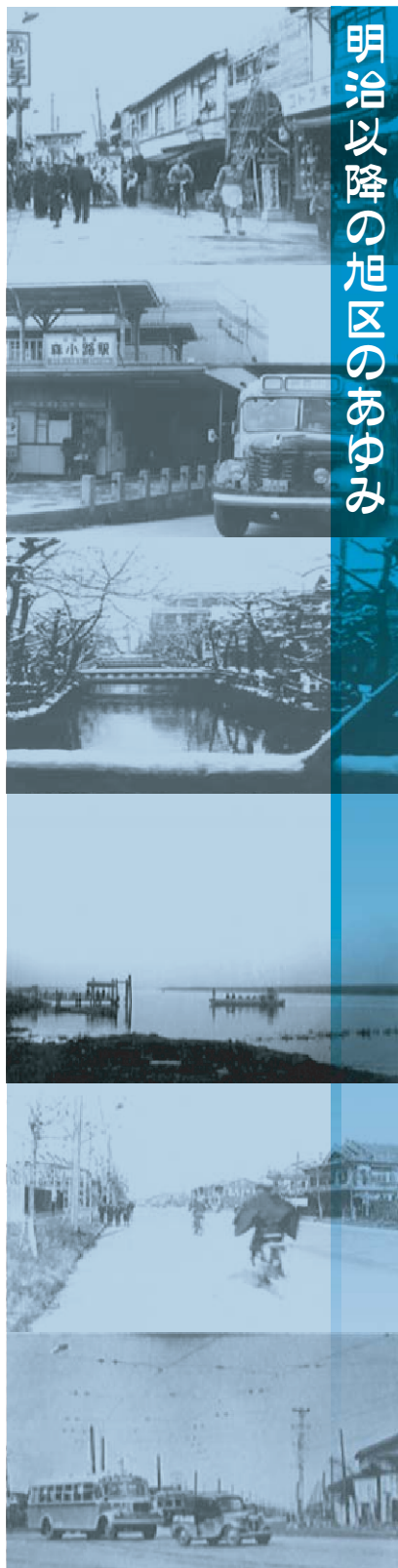


■第3回(平成19年9月7日)
重誓寺



■第4回(平成19年10月4日)
太子橋フィールドワーク

旭区でそれはいつから始まったのか？	3
地域の移り変わり	4
中宮のテーマ	5
ワークショップの活動記録	6
重誓寺	7
大川尻	9
森小路の家の前は井路川でした。	10
井路川の名の由来は？どうして言ったのか？	10
江野川	11
今の旭区が変化したことを知りました。	12
昔の中村（中宮地区）の特産物「河骨」	13
戦災の思い出の記	14



明治以降の旭区のあゆみ

明治	4年 (1871)	廃藩置県（大阪府を置く）旭区域は摂津県東成郡に属す
	6年 (1873)	千林小学校創立
	8年 (1875)	淀川修築工事着工 水制（ケレップ）工事が始まる 中村小学校（現、城北小学校）創立
	18年 (1885)	淀川左岸決壊し、大洪水が起こる。翌年にかけてコレラが大流行
	22年 (1889)	市制町村制施行（大阪市発足）旭区域は東成郡のまま 清水、古市、城北村がこの頃成立。
	29年 (1896)	淀川大洪水 翌年から淀川改良工事が始まる
	43年 (1910)	京阪電車開通（天満橋～五條間） 蒲生・野江・森小路駅開設
大正	45年 (1912)	この頃、千林商店街ができる。
	6年 (1917)	城北村に初の上水道給水
	7年 (1918)	米騒動が起こる
	11年 (1922)	古市・清水小学校創立 関西工学専修学校（現大阪工業大学）創設
	13年 (1924)	古市耕地整理組合設立 城北村で共同浴場開設
	14年 (1925)	大阪市第二次市域拡張 旭区域が市域に編入され東成区に
	15年 (1926)	城北土地区画整理組合設立
昭和	2年 (1927)	京阪国道（現、国道1号）の舗装工事始まる 京阪電鉄にロマンスカー登場
	3年 (1928)	片町～森小路、東野田6丁目～森小路1丁目間で区内初の市バス運行。
	4年 (1929)	区画整理事業による町名変更が行われる（昭和20年まで） 森小路、北船場、大宮で土地区画整理組合設立。
	5年 (1930)	榎並之荘、清水で土地区画整理組合設立。
	6年 (1931)	市電都島～守口間開通 森小路遺跡が発見される
	7年 (1932)	旭区が誕生（東成区から分区） 新森中央公園開園
	8年 (1933)	京阪国道（現、国道1号）開通 京阪電鉄蒲生～守口間高架複々線工事完成
	9年 (1934)	城北公園開園 室戸台風襲来
	12年 (1937)	御堂筋竣工
	15年 (1940)	城北運河（現、城北川）完成
	18年 (1943)	南半分が城東区、一部が都島区となり、現在の旭区となる。旭公園開園
	20年 (1945)	大阪市東北部大阪大空襲（6月7日） 終戦（8月15日）
	24年 (1949)	旭区役所庁舎再建（火災焼失のため）
	28年 (1953)	台風13号による大洪水が起こる
	32年 (1957)	今里～守口間でトロリーバス運転開始 ダイエー1号店が千林にオープン
	38年 (1963)	太子橋中公園開園
	39年 (1964)	城北公園に菖蒲園開園
	43年 (1968)	阪神高速道路北浜～森小路間開通
	44年 (1969)	市電全廃
平成	45年 (1970)	豊里大橋完成、平太の渡し廃止 旭区役所新庁舎完成 万国博覧会開催
	46年 (1971)	阪神高速道路守口線開通 旭区全域が下水処理区域になる
	48年 (1973)	城北運河魚つり場オープン
	49年 (1974)	城北運河歩行者専用道路完成 大阪市分区により26区に
	50年 (1975)	旭図書館、区老人福祉センター開設
	52年 (1977)	地下鉄谷町線都島～守口間開通 千林大宮、太子橋今市駅設置。
	58年 (1983)	淀川大堰竣工
	元年 (1989)	菅原城北大橋開通 大阪市合区により24区に
	2年 (1990)	国際花と緑の博覧会開催
	6年 (1994)	旭スポーツセンター開設
	12年 (2000)	旭区民センター・芸術創造館・旭図書館完成
	14年 (2002)	旭屋内プール、城北市民学習センター開設。

※「ぶらり探訪 旭の見どころ・知りどころ」より抜粋



旭区でそれはいつから始まったのか？

資料提供：小井戸茂

項 目	年 代	摘 要
電気	明治43年	京阪電鉄毛馬火力発電所より供給開始
水道	大正11年	城北地区一部で送水開始、大正13年に古市・清水地区まで普及
ガス	昭和3年	大阪ガスが旭区へ供給開始、昭和6年に区内全域に供給
私鉄	明治43年	京阪電車開通、森小路駅開設。昭和6年に新線(B線のみ)へ移転
市電	昭和4年	都島本通～今市間開通、昭和6年に今市～守口間開通
市バス	昭和3年	森小路1丁目～片町間運行開始、昭和6年に森小路8丁目まで延長
トリーパス	昭和32年	守口～今里間運行開始、昭和45年に廃止
地下鉄	昭和52年	谷町線都島～守口間開通
公園	昭和7年	森小路中央公園開園、次いで昭和9年に城北公園開園
郵便局	大正6年	特定局森小路郵便局開局（ただし集配は本局鯉江郵便局）
電報	昭和8年	森小路郵便局で取扱い開始
電話	明治35年	今福郵便局電話分室で交換事務開始
警察署	昭和16年	旭警察署開署、以前は今福、網島、守口3署の管轄
消防署	昭和23年	旭消防署開署、以前は今福消防署の管轄
区役所	大正14年	東成区役所出張所を千林に設置、昭和7年に旭区役所新設
保健所	昭和16年	森小路保健所開所（大宮2）、昭和38年に新庁舎へ移転
税務署	昭和7年	旭税務署開署（野江中3）、昭和41年に新築移転
総合病院	昭和7年	区内にはなし。最寄り大阪高等女子医学専門学校付属病院開院
市民病院	昭和28年	市立城北市民病院開院、平成5年に市立総合医療センターに併合
大学	昭和24年	摂南工業大学発足（半年後に大阪工業大学と改称）
実業高校	大正12年	京阪商業仮開校、公立では昭和12年に第六職工学校開校
普通高校	昭和28年	府立旭高等学校開校（設立当初は府立第48高等学校）
新制中学校	昭和22年	市立旭第一中学校開校、昭和24年に旭陽中学校と改称
小学校	明治6年	組合立千林小学校創立、大正11年に古市・清水両小学校に分離
養護学校	昭和15年	市立思斉学校開校、昭和32年に思斉養護学校と改称
幼稚園	昭和13年	私立新森幼稚園開園、公立では昭和52年に市立旭東幼稚園開設
保育所	昭和8年	市立生江保育所開所
図書館	昭和50年	旭図書館開館、平成12年に現在地に移転
映画館	昭和12年	江南キネマ開館
大相撲	昭和12年	大阪国技館開館（関目は当時旭区）、昭和16年に中止
水都祭	昭和38年	旭区淀川河畔で開催、昭和49年まで。以後天神祭奉賛行事に併合
ラジオ	大正14年	(社)大阪中央放送局放送開始、昭和6年頃から受信機普及
テレビ	昭和28年	NHK本放送開始
地方銀行	大正9年	加島銀行森小路出張所開店
都市銀行	昭和8年	三和銀行森小路出張所開設、昭和13年に支店に昇格
近代工場	明治30年	奥村織布工場開業、旭区の工業の始まり
市場	大正9年	古市村営公設市場開場（後の森小路公設市場）
スーパー	昭和27年	ニチイ千林店発足（赤のれんが改組）、後のスーパーへ
百貨店	昭和6年	高島屋森小路店開店、のち斜め向かいへ移転
近代的国道	昭和8年	国道2号（別名京阪国道）開通 ※現在は国道1号
高速道路	昭和43年	阪神高速森小路線開通
運河	昭和15年	城北運河完成（昭和12年に古市橋開通）
渡し船	明治37年	平田の渡し（豊里村営で）。延宝4年(1676)以降個人経営
市会議員	昭和4年	現旭区出身の第1号 寺西圓治郎氏
水洗便所	昭和47年	今福下水処理場完成で実現
町会隣組	昭和15年	昭和22年に解散、現行の制度は昭和50年に旭区地域振興会発足から
現住居表示	昭和46年	町は削除、丁目・番・号制に改正…新地名登場(高殿、新森、清水、太子橋)



地域の移り変わり

協力：大阪市史編纂所



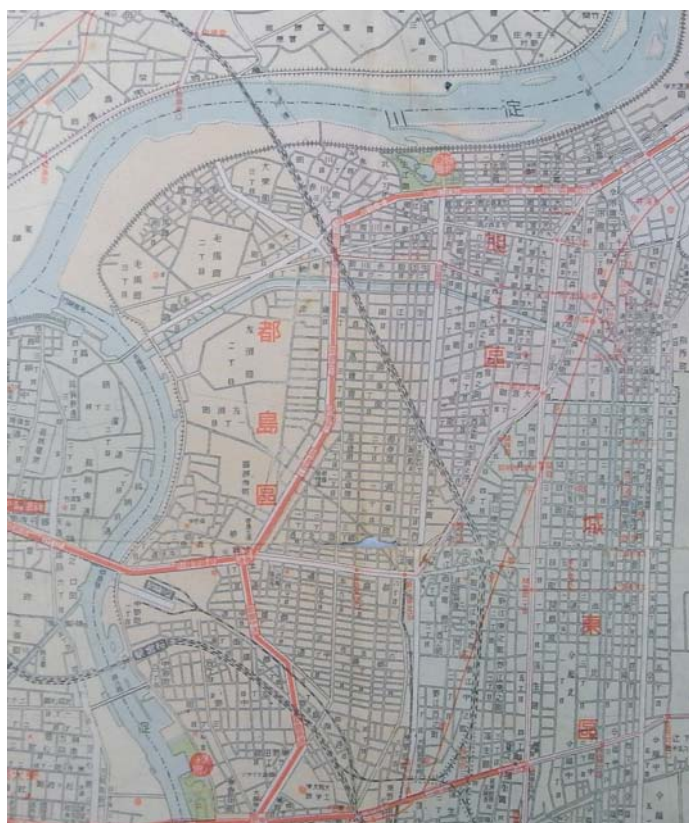
■明治20年(1887年)の旭区周辺

1887



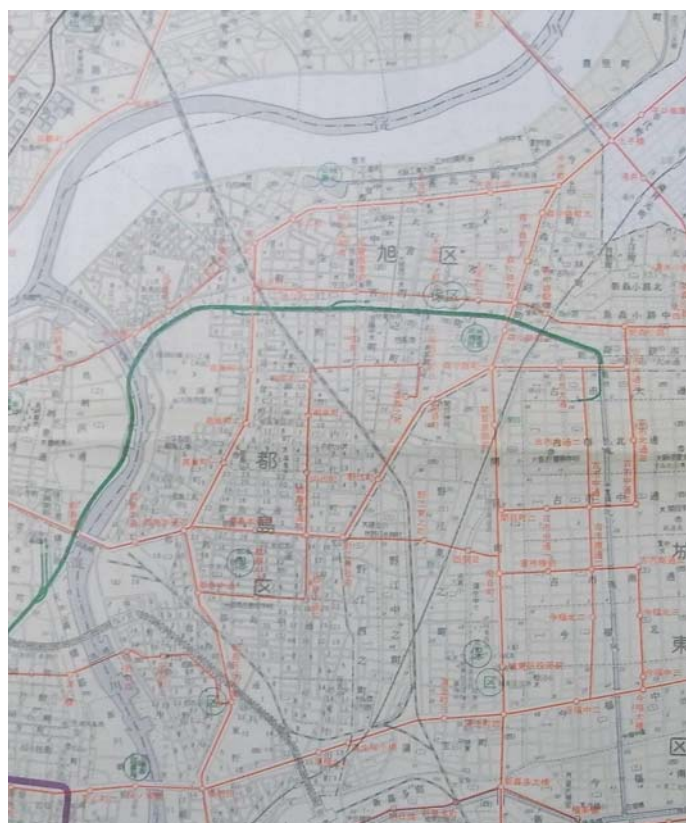
■大正14年(1925年)の旭区周辺

1925



■昭和29年(1954年)の旭区周辺

1954



■昭和45年(1970年)の旭区周辺

1970

中宮



大阪市旭区
中宮1丁目～5丁目
nakamiya

町名の由来

町名は、単に「中」と呼ばれていた大字名を、大正14年の大阪市編入に際し、隣の大字江野との関係からその地に存在する大宮八幡宮に対し、中宮を採用したことに由来する。



森小路の家の前は井路川でした。

井路川の名の由来は？

今の旭区が変化したことを知りました。

戦災の想い出の記

昔の中村(中宮地区)の特産物「河骨」



平成19年度地域史づくりワークショップメンバー 敬称略・50音順

■上田 ■上田 ■遠藤 ■小椋 ■鎌田 ■鎌田 ■草木 ■小井戸 ■河本
■小林 ■島津 ■田口 ■竹中 ■富増 ■豊田 ■中村 ■福田 ■矢野

重誓寺

ワークショップの活動記録

ワークショップ開催日	議論のポイント・内容
第1回 平成19年5月28日	テーマの種を出し合う 中宮及び太子橋について、知っていること、知りたいこと
第2回 平成19年7月3日	テーマを決める テーマのアンケート ・テーマを限定しない地域史づくり
第3回 平成19年9月7日	重誓寺で前ご住職にお寺や地域の歴史についてお話をお聞きする
第4回 平成19年10月4日	太子橋フィールドワーク 太子橋小学校前～淀川～太子橋中公園～淀川工業高校までのまちあるき
第5回 平成19年11月22日	担当してみたいもの 発表会の開催に向けた内容の整理
第6回 平成20年1月29日	紙面レイアウト このワークショップと成果発表会の名称決定
第7回 平成20年2月26日	地域史の記事確認 発表会の具体内容を調整
第8回 平成20年3月13日	地域史最終レイアウト 発表会の最終調整
成果発表会 平成20年3月22日	旭図書館多目的室において、 地域史づくりワークショップ発表会 「旭区 いま・むかし」を開催



【プログラム】

- ①地域史(大宮編)より、昔の地名について
- ②6月7日大空襲の日のこと
- ③私の小学校時代について
- ④旭図書館の蔵書紹介(旭区の歴史の調べ方)
- ⑤昭和32～35年頃の大阪の映像
- ⑥地域史(古市編)より、古市の地名考について





重誓寺 じゅうせいじ



■本堂 完工 御遷座法要(昭和52年5月15日)



■山門 平成15年3月新築

重誓寺の歴史

重誓寺は浄土真宗本願寺派の寺院である。その歴史を辿れば、治承4年(1180)高倉上皇、巖島行幸の途中淀川を下り、川尻の藤原國綱の寺江山莊に泊まれたが、その山莊が繩御殿とも呼ばれていた。後に高倉上皇がそれを仏法弘通の場として、人々を現当安隱しならしめるように宜うた。そのお言葉を継承して、藤原國綱、阿弥陀如来画像を安置して、白蓮院と名付け、大勢の人々が参詣していた。

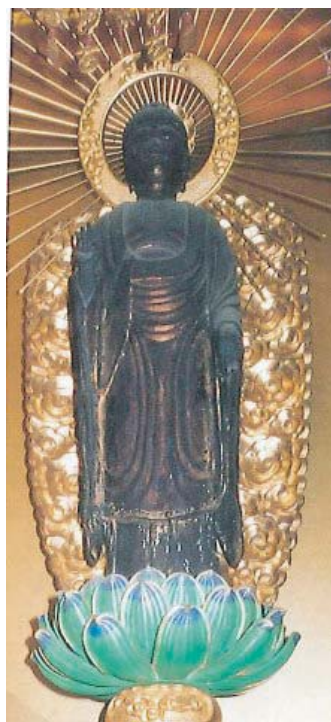
その後、文暦元年(1234)國綱、賢浄という僧を請じて人々を教化させていた。

賢浄は島津友廣という鎌倉の武士であったが、親鸞聖人関東御化導の節、皈依してお弟子となり、法名を賢浄と賜わったと伝えられている。

開基賢浄より当院第10代宗賢の時代に、本願寺第8代蓮如上人、明応5年(1496)上町台地に本願寺の坊舎を建立された。その頃、蓮如上人が当寺にお立ち寄りされ、御名号を御染筆なし下された。また、境内に松と藤をお手植されたが、松は早く枯れ、藤はその一部が残っていたが本堂のすぐ裏にあったため昭和20年6月7日の戦災で本堂と共に焼けてしまった。昭和19年梵鐘が軍需の為供出された。



■第3回ワークショップでは、ご本尊を拝観させていただきました。



方便法身の画像／阿弥陀如来木佛

当院第11代西了に至り、
本願寺 實如上人より
「重誓寺」という寺号を賜わった。

永正17年(1520)方便法身の画像を(現存:
写真左)、貞享元年(1684)阿弥陀如来木佛
を(現存:写真右)本願寺より賜わった。

「重誓寺真宗関係史料」は、大阪市指定文化財(分類:
指定有形文化財・歴史資料)として指定されています。

当院第13代浄念の時、本願寺と織田信長との間に石山合戦がおこり約10年間本願寺は籠城した。その時、この榎並の村々より番衆や兵糧を送った。特に青田を刈って夜ひそかに運んだということで「青田刈り」という言葉が出来たそうである。

それを起源して本願寺よりこの榎並の寺、門徒にご消息が下され、江戸時代に榎並十四日講という講社が出来て、昭和の中頃まで、榎並(旭区、城東区、都島区)の浄土真宗各寺で毎年その御消息披露の法座が開かれていた。

明治5年に小学校の制度が始まったが、明治8年7月に寺内に中村小学校が設立され、大阪府第五大区3小区で江野、中(中宮)、南島(大宮)、荒生(生江)内代、関目の子弟が通学した。その後、明治13年3月に5番小学校、明治20年4月に中村簡易小学校と称し、明治22年7月城北尋常小学校が創立されるまで続けられた。

昭和20年6月7日、大阪市北東部の大空襲があり、寺は子弟焼夷弾で、本堂庫裡書院等全焼した。

その時、多くの寺宝、記録が消失したが、次のものが疎開により消失を免れた。

御本尊木佛(上記)方便法身画像(上記)、聖徳太子。七高僧画像、その他山門、喚鐘、大銀杏等、昭和52年門信徒の協力により現在の本堂が再建された。平成15年蓮如上人500回忌当寺28代住職継職法要の記念行事として山門など新築が行われた。 <島津>

お話と拝観



平成19年9月7日(金)、3回目となる中宮・太子橋地域史づくりワークショップでは、中宮にある重誓寺(じゅうせいじ)にお伺いし、お寺の二十七代目である前住職にお寺や地域の歴史についてお話をさせていただくとともに、ご本尊や聖徳太子御影などを拝観させていただきました。



大川尻 おおかわじり

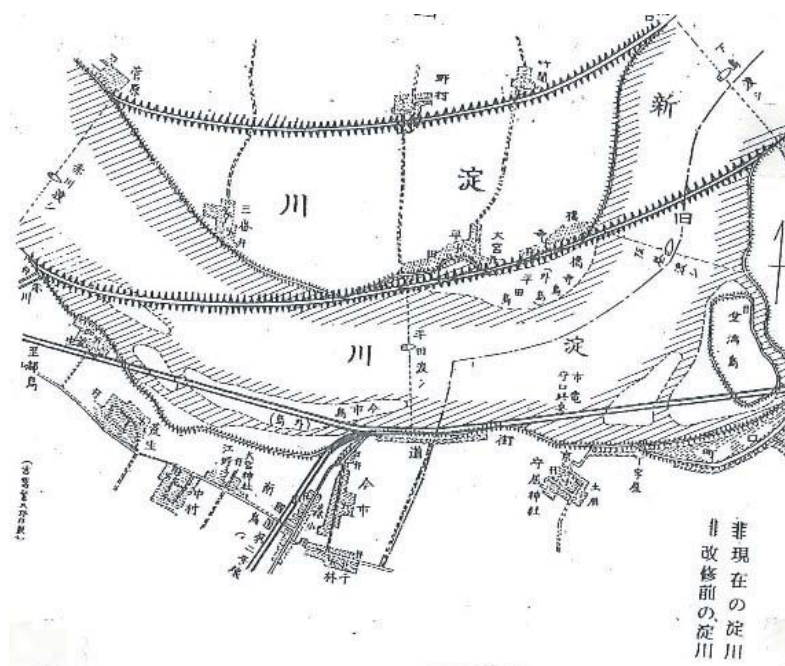
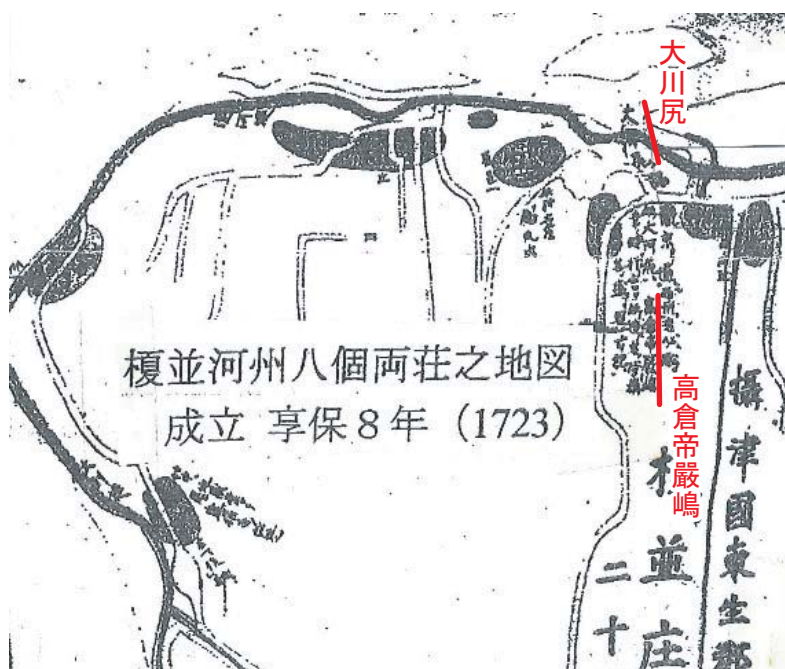
「淀川の汀、中村をいふ、むかし川船にて西海へ趣く時は必ず船をここに繋ぐなり。」

光親郷の記に曰く、壽永年中五条大納言國綱郷ここを領し、高倉上皇嚴島行幸の時、行宮を営講すと云々。

(摂津名所図繪)

かくて、御舟をいだして、こち風をおいて下らせ給、さる時に川じりの寺江といふ所につかせ給ふ、國綱の大納言御所つくりて御まうけ心をつくして、御舟ながらに差し入れて、釣殿よりおりさせ給ふ。

(高倉院嚴島御幸記)



近世 淀川洪水の歴史

①延寶の仁和寺切

延寶2年6月14日

②享保の枚方切

享保20年6月21日

③享和の仁和寺點野切

享和2年6月27日

④文化の八幡切

文化4年5月5日

⑤明治元年の徳庵切

明治元年5月11日

⑥明治18年 枚方切

明治18年6月17日

⑦明治29年より堤防改修

⑧明治43年竣工

<島津>

改修前、淀川図 (旭区政誌 昭和28年 大阪市旭区役所発行より転載)

井路川(どぶ川)

森小路の家の前は井路川でした。

よく竹竿で棒高跳びのまねをし、どぶ川を飛び越えましたが、うまく飛び越えられたら近道が出来たと喜んでいました。…が失敗し、川にはまり母親にしかられました。

しかし、今日のように化学物質に汚染されたりではなく、かえる、青大将等が生息し、イチヂク、ビワの木などもありました。玄関が川に面した家は、各家ごとに木の橋が渡してあり、一号線をひとつ東に入るだけでのどかな場所でした。

昭和24年、今の古市小学校(当時は分校)の東側にある井路川が暗渠工事されているのを見て、早く家の前のどぶ川を埋め立てて欲しいと考えていました。 <中村>



暗渠後

■井路川暗渠後の様子
<現在の森小路2丁目付近／昭和30年頃>
(写真:中村英祐)

井路川に関する詳しい内容は、
地域史「大宮編」をご覧ください。



■井路川の風景
(上写真2点:
「城東区50年のあゆみ」より)
(下:旭区史より)

川の記憶

井路川の名の由来は？ どうして言ったのか？

どこから流れてきたのだろうか？ どちらの方へ流れていったのだろうか？
かつて淀川が上辻霊園のところで水が樋の所を通して、清水千林を通して、
ゆうゆうと流れていた道筋がそのまま残っているのがなつかしい。

上辻霊園の所から北清水、貝脇、千林になり左へ曲がって清水小学校の方へ行く。

清水小学校へ通っていた頃、夏は学校から水泳をするために淀川の方へ行
った。運河と言われていた川で、整備されていたきれいな川だった。

その後、高速道路が出来ている(江野川といっているのだろうか?)。だん
だんと変わってきている。千林小学校は京阪千林のあたりで、人がふえて古
市と清水の小学校に分かれる。

うちの父も千林小学校に通っていたそうだ。

淀川がこの墓のところあたりで、平地に流れて河内平野になってゆく。

江戸時代終わり頃”姓”をつけるのにいろいろ考えたらしいが、うちのおじ
いさんは樋のそばにあった家だから樋口という姓にした。また、もう一軒
は樋の上という姓にしている。今もその人々は同じ辺りにいる。

戦時中は、家の座敷の床を上げた地下に防空壕を掘って、空襲のサイレン
が鳴ったら、あわてて逃げ込んだものだった。

息子が生まれて間なしだったので、大変だったが、この辺は被害がなかつ
たので、まだましだった。 <上田(信)>



江野川 えのがわ

正式名称は樋管統一水路

江野川の正式名称は樋管統一水路と言います。

昭和以前の旭区の地域は純農村地帯でした。当然田畑の灌漑用水として淀川の堤防に樋門・樋管をもうけ、農業用水の取り込みをしていました。しかし、これらが老朽化すると堤防の安全に影響を与え、補修費用も多額に上ることから、それらを統一し、一ヶ所から取水して堤内用水路で田畑に配分する計画が建てられました。

枚方市字伊加賀地先に新合同樋門を建設し、上庄・出口・二十箇・茨田・佐太・八雲・五箇・榎並の8用水樋をまとめ、さらに流末の予備水路として在来の榎並用水の一支江野樋の地点を基点に、城北運河（現、城北川）へ放流する計画です。

この事業は昭和8年に着工、昭和9年に完成しました。



■昭和42年頃の江野川
中宮4丁目の城北公園通りから北側を撮影
(写真：旭区ホームページより)

昭和～江野川と土地区画整理事業

昭和に入ると大阪市は、大大阪(ダイオオサカ)と称される程工業・商業が発達し、それらに関わる人々の住居地帯の整備のため、土地区画整理事業が始まりました。

旭区の中宮地区は、榎並の荘土地区画整理事業として昭和7年より工事が始まり、昭和17年に完成。今の様な碁盤目の町が完成しました。

それまで農業用水だった江野川は、雨水・悪水の排出路として利用目的が変更されていきました(ちなみに江野公園はこの区画整理事業の一つとして昭和12年にできました)。

大阪で万博(昭和45年)が開かれることとなり、交通網の整備のため高速道路が計画されました。その予定地として江野川の上を使用することになりました。



■枚方市の淀川沿いにある
合同樋門跡のプレート



■枚方市の水面回廊にある
合同樋門の記念プレート



■唯一残る江野川に架かっていた「大和橋」の2つ親柱
(大阪工業大学の前)

しかし、道路予定地に沿って大宮西小学校・大宮中学校・大阪工業大学等教育施設が並んでいるため環境問題として反対運動が起きました。話し合いが続けられ、高架橋の高さを嵩上げし、さらにプラスチック板の遮音壁を造ること、及び江野川跡を緑陰道路化することで話し合いがつきました。結局守口線は万博には間に合わず、昭和46年に共用開始となりました。

江野川は昭和49年に完全に暗渠化され、江野川筋自転車歩行者専用道路(守口市外島町から大阪市旭区区役所までの約3.5km)として整備され現在に至ります。 <富増>

■江野川筋自転車歩行者専用道路



旭区と川

——— 今の旭区が変化したことを知りました。

高殿へ約25年前に移り住むことになり、現在の旭区のことしか解らないので、昔の町を知りたくてこの会に参加させて頂きました。

この街は淀川によって発展。風水害にあったりしたが京街道や太閤堤に守られてきました。

明治から大正にかけて、淀川の大改修によって淀川が安定し、農園地帯となり江野川、井路川が網の目のように事細かく流れ、田畑や小舟の便に利用されました。

この土地に京阪電車が走り、大阪に行って働く人達の町へ。

千林商店、ダイエーをはじめ、ニチイ、長崎屋の大店の進出。

平太の渡しから豊里大橋へ。地下鉄、国道1号、大阪内環状線、阪神高速などが発展したが、代わりに江野川や井路川がなくなりました。 <遠藤>



昔の中村(中宮地区)の特産物

「河骨(こうほね)」

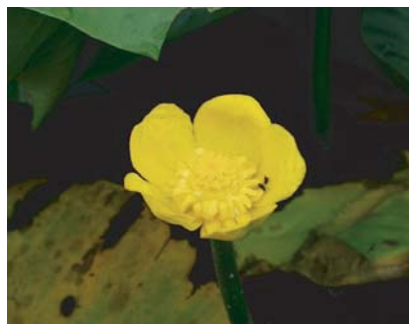
河骨とは、スイレン科の多年草
地下茎が竹のように太く、根が多く出ている、
地下茎が強壮、止血剤の薬となり脚気にも効能がある——。

隔年、8月より9月に根茎を収穫し、泥を洗い落として30cm位に切り、それを縦に2つに割って、干し、ひっくり返して、ポキポキに折れるまで乾かし、水分をとる。
それを、大阪の薬種問屋に出荷されていた。
大正8年度の収穫高凡そ千貫(3750kg)
価額1500円(当時)。 <上田(勢)>

【参考文献】「東成郡誌下巻」「大阪府の地名I」



■コウホネの根茎(新潟県新潟市)



■コウホネの花(福島県飯舘村)



■コウホネ(山形県村山市)

(写真3点提供:大阪市立自然史博物館 志賀氏)

旭区の柳通り



■昭和30年代の柳通り
(現在の旭消防署交差点付近)

ワークショップの中で「柳通り」という通りの名前がよく出てきます。

「柳がある通り？」といつも首をかしげているところ、その答えが旭区のホームページにありました。確かに今はない柳の木が街路樹として植えられています。

<ファシリテーター>

昭和30年代に、現在の旭消防署前交差点から西側を写したものです。当時交差点南西には、音楽関係で知られた音響があり、テレビ・電気蓄音機などを製作していて、初荷の風景を写したものです。また、音響の西隣に関西染工場という布地を染める会社がありました。
(旭区ホームページより)



戦災の思い出の記

昭和20年6月7日の空襲で私の生家も焼けた。重誓寺さんも焼けた。
蓮如上人お手植えの松、藤も大きな伽藍と共にすべて灰に帰したときいている。

この時はB29が250機以上。B24護衛機を引き連れて小型爆弾や油脂焼夷弾で空爆し、
約2800人が死亡。旭区でも261人が死亡した。

この日、私も空襲警報発令と同時に城北方面に逃げた。

(その日は6月1日の空襲で在学していた清水谷高女も被災し、同じ壕にいた学友3人も亡く
していたので学校が閉鎖になっていた)

そして、赤川鉄橋付近で容赦なく機銃掃射爆弾の雨が降った。その弾痕は今はない。

私は、その時履いていた下駄の後かけのひも(ぬげないように)の調子が悪くモタモタしてい
る間にそれに遭遇し、急降下してきた米軍兵の顔まで覚えている。

その後、身許不詳や引き取り手のない遺体は数カ所で野焼され、淀川の堤防付近に千数百体が
運ばれて茶毘に付され遺骨はその土中に葬られた。

それを衰んで、篤志家の東浦栄二郎氏が庭石に千人塚を刻んでその場所(現在より東の堤防の
中腹)におかれたときいている。

現在は、堤防上に由末記と共に黒御影を台座にした千人塚があり、毎年6月に慰霊祭が行われ、
当時を偲びその冥福を祈っている。どんなに無念であったことだろう。

思うに私たちが生き抜けてきた時代の中で、それぞれの戦時体験とその時代や思い出を戦争
を知らない世代に是非共語りかけたいと思う。

それこそ、消えていく過去への何よりのレクイエムになるというものであろう。 <竹中>

戦災の思い出は切ない

○



■ 千人塚

戦災に関するコラム

まず、私達が直面したのは食糧にまつわる
ホロ苦い経験である。

さつま芋(芋でない)のつる、南瓜のつるも
筋をとって食べた。その他、etc...

それでもアメリカのララ物資のおかげで
固いコッペパン、団子汁(後にスイトン?
という名に変わったが)一番びっくり唾然
としたのはアメリカ軍の非常食セットの
豪華版である。食後の煙草まで付いていた。
日本の乾パン糰(ホシイ)とはえらい違い
である。 <竹中>

[illegible]

旭区地域史

区民による地域史づくり・人づくり 大阪市旭区地域史づくりワークショップ 【中宮編】

平成20年3月

- 編集／旭区^{いまむかし}の今昔を知る会
- 発行／大阪市旭区役所区民企画担当
- 協力／総合調査設計株式会社

この冊子は、区民の方が中心となって現地確認、聞きとりなどの調査、情報収集をして作成しました。

旭区の今昔を知る会からのお願い

旭区の地域史づくりにご協力ください。

旭区の歴史を子どもたちに残すため、みなさんが持っておられる古い写真や資料をお貸しください。

■江戸時代や明治時代から昭和40年代頃までの、旭区の風景、行事などを写した写真、又は古い資料や道具などなんでも結構です。

■お借りしました写真や資料等は大切に取り扱い、写真データ等におさめた後、返却いたします。

■お借りしました写真や資料等は、地域史作成のための資料や地域史に掲載させていただくほか、旭区役所が実施します各種事業に使用させていただく場合がありますので、ご了承をお願いいたします。

なお、地域史は今後数年かけて作成する予定ですので、お借りしました資料等の掲載にはお時間がかかることがあります。

詳しくは旭区役所区民企画担当(企画振興)までお問い合わせください。

「旭区^{いまむかし}の今昔を知る会」とは

平成18年度から公募で集まったメンバーで、区内10地域の身近な歴史や思い出などをとりまとめて、順次「地域史」を作成しています。本会では、地域史の作成を通じて、これまで積み重ねてきた経験等を活かした人材の育成、コミュニティのさらなる向上を目指すものと考えています。



平成20年3月

本内容に関するお問い合わせは
大阪市旭区役所区民企画担当まで
tel06 (6957) 9734